

JAえちご中越 さんとう地域「あきだわら」栽培暦

あきだわら・にじのきらめき生産者部会

月

日

出穂前後日数

4月

5月

6月

7月

8月

9月

5

10

15

20

25

5

10

15

20

25

5

10

15

20

25

5

10

15

20

25

5

10

15

20

25

-24

-14

0

+46

生育ステージ

品種特性に合わせた作業計画の策定

種子消毒
(温湯消毒)

浸種開始
4月1日

催芽
4月11日

播種
4月13日

播種量の目安:150g/箱

育苗日数は
20日程度

田植え
5月3日~5日

中干し開始
6月15日~

最高分け時期
7月5日

1回目穂肥
7月19日

2回目穂肥
7月29日

出穂期
8月12日

収穫期
9月27日~

病害虫防除

【いもち・紋枯病予防】
ルーチンブライト箱粒剤
播種時~移植当日

除草剤散布

“補植苗”を
早期に撤去する

6月下旬~
葉いもち病
早期発見
早期防除

紋枯病
本田防除

★必須防除★ 穂いもち病
【ゴウケツ・ブラシン剤】

穂ぞるい期
【カメムシ防除】
スタークル剤

稲わら秋すき込み

水管理

・田植後→3~4cmのやや深水で植え傷み回避
・活着後→2~3cmのやや浅水で早期分けつ促進
・除草剤散布時→湛水状態(水深5~6cm)で散布
・中干し開始まで→浅水更新でワキの発生防止

やや深水

一時湛水

浅水更新

生育量を把握して遅れずに!
小ヒビが入る程度になったら終了

中干し・溝切り

飽水管理の継続 ⇄ タメ水厳禁
(異常高温時には一時湛水)

フェーンの発生時:地域の水利条件等に応じた
夜間水温を下げるこまめな水管理の徹底

出穂後25日以降に
最終かん水を実施!

落水期

栽培管理のポイント

Point 1

~適正な作業計画の策定により
健苗を育成します~

① 移植期にあわせた適期播種、適正な播種量、育苗期間20日程度で健苗を育成する
② 土壌診断結果にもとづく土づくり資材(有機質・ケイ酸)の施用
③ 作土深15cm確保~ほ場条件に応じた適正量の基肥施肥→基肥N施肥量のめやす**5.6~7.0kg/10a**
極端な多肥栽培を避ける

Point 2

~適期田植えて
初期生育を確保します~

① 移植前追肥(べんとう肥)の施用→活着・初期生育の促進
② 田植期は、**5月3日~5日**
・栽植密度:60株以上/坪
・植付本数:3~4本/株
・過度な疎植を避ける(収量減)
・植付深さ:2~3cmの浅植え
③ いもち病の発生しやすい地域・ほ場では予防防除(箱施用剤)を徹底→補植苗を速やかに撤去

Point 3

~生育状況にあわせた生育調節で
過剰生育を抑制します~

① 目標穂数の80%:茎数280本/㎡以上=1株あたり16本を確保してから→適期中干し開始
② 全ほ場で溝切り(10条:3mに1本)
・速やかなかん水・排水管理
③ 本格的な梅雨入り前にしっかり地固め→中干しは小ヒビが入る程度になったら終了~遅くとも出穂30日前までに飽水管理へ移行

Point 4

~病害虫防除と水管理の徹底で
稲体機能を維持します~

① いもち病・紋枯病の早期発見~早期防除(こまめにほ場巡回)
② 中干し以降は、田面が強く乾くことのないよう飽水管理を継続(強い中干し・タメ水→厳禁)
③ 出穂後25日以降に最終かん水を入水(落水は出穂28日以降)異常高温時:速やかに一時湛水~高温障害を防止

Point 5

~適切な生育診断による穂肥施用
・品質・収量を確保します~

① 穂肥は出穂25~23日前(幼穂形成期)と14日前の2回に分けて施用→施肥量は、1回あたり2.5~3.5kg/10aをめやすとし合計**5.0~7.0kg/10a**をめやすとする
② 穂肥施用時の生育めやすを大幅に超える場合は、施肥量を控える
③ 出穂期の葉色が「SPAD値で36」を下回らないよう2回目穂肥は確実に施用する

Point 6

~適期刈取、適切な作業により
高品質米に仕上げます~

① 出穂後の積算気温:1050℃~1100℃を参考に籾の黄化率(85~90%)を確認して適期に収穫する
② 胴割粒の発生防止:適正な乾燥温度・速度で急激に乾燥させない→高品質米仕上げ
③ 収穫後は早めに土づくり資材の投入+稲わらの秋すき込み

《施肥のめやす》

(成分 kg/10a)

区分	時期	N成分	備考
土づくり	収穫後	—	稲わら秋すき込み 有機質・けい酸資材
基肥	~田植え	5.6~7.0kg	地力に応じて
穂肥1	出穂23日前	2.5~3.5kg	遅れずに施肥→籾数確保
穂肥2	出穂14日前	2.5~3.5kg	しっかり施肥→登熟向上
合計	—	10.6~14.0kg	*一発基肥 トータルN:120~135kg

《生育のめやす》

生育ステージ	時期	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉色 (SPAD)
1回目穂肥	7/19	80	430	33~35
2回目穂肥	7/29	85	400	35~38
出穂期	8/12	87 (稈長)	330~350 (穂数)	36~40

《品質向上・収量確保目標》

玄米1等級比率	90%以上
10a当たり収量	720kg

《品種特性》

早晚性	耐倒伏性	葉いもち	穂いもち	紋枯病
晩生	やや強	弱	やや弱	やや弱

《収量構成要素》

収量 (kg/10a)	1穂籾数 (粒)	穂数 (本/㎡)	㎡籾数 (百粒)	登熟歩合 (%)	千粒重 (g)
720	103	350	360	90%	22.2